

第3回飯能市地域公共交通対策協議会が開催されました。

平成25年3月27日（水）に第3回飯能市地域公共交通対策協議会が開催されました。

協議会では、昨年11月に行われた市民意識調査の結果や利用者アンケートの結果の報告、アンケート結果等から地区の特性を分析した地区別カルテの報告、調査などから得られた課題や交通計画策定に向けての検討事項の協議等を行いました。

委員の皆様から、地区の現状、利用者としての感想など活発な意見が出され、座長の吉田樹先生からは、「バスに乗ってもらうためには、乗ってもらう仕掛けをつくれるかを考える必要がある。品質に裏打ちされた地域の公共交通をどう考えていくのかを議論していく」との提言があり、「つくる、まもる、育てる」という考え方のもと、今後も議論を続けていくこととなりました。



また、先生から「公共交通の維持確保のためには、みなさんが利用することが今できることであり、大切である。」とのお話がありました。

なぜバスを小型にしないの？

利用者の多い通勤通学時間帯は大型バス、昼間の利用者の少ない時間帯は小型のバスにしてはどうかと考えるかもしれません。なぜ、全ての時間帯に同じバスが運行しているのでしょうか。

路線バスは、決まった車両が、決まった路線を専門に運行するというのではなく、運行ダイヤに合わせ、管轄する路線を全て運行しています。名栗方面のバスは名栗方面だけを運行しているのではなく、南高麗方面も日高方面も運行しています。どのバス路線においても乗客数に対応できる大きさのバスを運行しているのです。また、乗客の「乗せ残し」をしないように運行することが大変重要なこととなります。（時間帯によっては、あふれんばかりの人が乗車しているということもあります。）

さらに利用が少ない時間のバスを小型にするとした場合は、大型バスのほかに小型のバスを用意しなければなりません。（大型バスも小型バスも燃費、車両購入費とも大差がないとのこと。）

5 人家族を例にマイカーで考えてみます。休日に家族全員でお出かけするためにワンボックス車を購入したとします。休日は家族でこの車でお出かけします。でも、平日は、お父さんだけがこの車で通勤に利用したとします。通勤では一人しか利用しないので通勤用を別に購入するという家庭はあまりないのではないのでしょうか。バスも経費がかからないよう、利用者が多い時も少ない時も対応できる車両で運行しています。ご理解ください。

